

水と文学 (15)



前東京都水道局理事 小泉 智和

とある日、先輩の榮森康治郎さんから、井上ひさし選の「水」という本が贈られて来ました。

この中に榮森さんの一文が載っていました。(榮森さんは、東京都水道局の出身で、給水装置の第一人者であり、また水道史家として活躍されている方です)

電話で、榮森さんに一文が載った経過を尋ねて見ますと、「井上さんが、水に関するエッセイなどを集めていて、たまたま自分がかって書いた文章が井上さんの目に止まり掲載された」とのことでした。

読んでみてこの本、若干脈略がありませんが、にもかかわらず、井上の水に対する想いが自然と伝わってくる不可思議な本です。

○ 井上ひさしの略歴

井上ひさし(本名内山廈くひさし)は、昭和9年(1934)山形県川西町で生まれました。

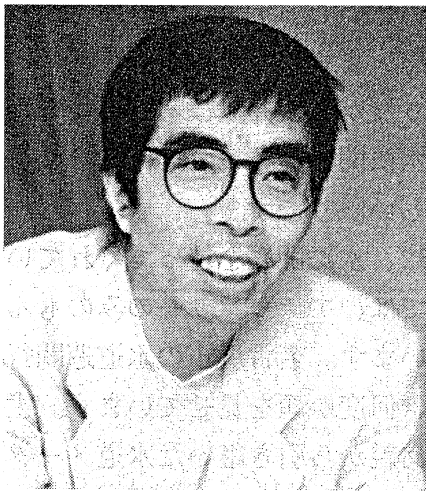
上智大学(フランス語学科)在学中からの浅草フランス座文芸部員兼進行係を経て、放送作家となりました。現在は、作家・劇作家で、劇作家協会会長、日本ペンクラブ副会長をつとめ、また「こま

つ座」座付き作家として活躍しています。彼の活躍の程は、主な受賞歴(作品)で、それをみることができます。

- 昭和33年 芸術祭賞脚本奨励賞(「うかうか三十、ちよろちよろ四十」)
- 〃44年 日本放送作家協会賞最優秀番組賞(「ひょっこりひょうたん島」)
- 〃45年 日本レコード大賞童謡賞(ムーミンのテーマ)
- 〃46年 斎田喬戯曲賞(「十一ぴきのネコ」)
- 〃47年 岸田戯曲賞・芸術選奨新人賞(「道元の冒険」)
- 〃〃 直木賞(「手鎖心中」)
- 〃54年 紀伊國屋演劇賞個人賞(「しみじみ日本・乃木大将」「小林一茶」)
- 〃55年 讀賣文学賞・戯曲部門(「しみじみ日本・乃木大将」「小林一茶」)
- 〃56年 日本SF大賞(「吉里吉里人」)
- 〃57年 讀賣文学賞・小説部門(「吉里吉里人」)
- 〃61年 吉川英治文学賞(「腹鼓記」「不忠臣蔵」)

- 昭和63年 テアトロ演劇賞（昭和庶民伝
三部作の完結）
- 平成3年 谷崎潤一郎賞（「シャンハイ
ムーン」）
- 〃11年 菊池寛賞（「東京セヴンロー
ズ」の完成など）
- 〃13年 朝日賞（知的かつ民衆的な現
代史を総合する創作活動）
- 〃15年 毎日芸術賞（「太鼓たたいて
笛ふいて」をはじめとする創
作活動）

以上、彼の作品の多くは、笑いの中に
物事の本質をえぐり出し迫る鋭さがあっ
て、魅力となっており、多くのファンを
得ています。



井上ひさし（撮影・落合高仁）

○ 井上ひさしの「水」という本

この本は文学書ではありません。私が
書いているのと同じように、水にかかわ
る文章を集め紹介している本です。

この本の「はじめに」で、井上は「人
間はみんな水が好きなのです。なにしろ、
わたしたちは水の中から生まれてきたの

です。この地球は水惑星と呼ばれる
ほど、水が豊かです。わたしたちの祖
先も海の水のなかから陸にあがってき
たのでした。そのせいかどうか、わた
したちの体も水からできています。……（中
略）……水が好き、そして水は不思議と
言う気持ちが高じて、いつの間にか、わ
たしは水について書かれた文章や詩歌を
集めるようになりました。（2003年7月）」
と書いています。

本の構成順に、ページをめくってみま
しょう。

I（水を下さい）では、原爆で被爆し
た原民喜さんの詩を載せています。

II（水と人間）では、井上は、「いま
や水は、ヒトに酷使されて、疲れ果
てている。水が病みはじめたのだ。
ヒトはいま、水の有限性の壁にぶつ
かっている」と言い、ここでは北野
大の「体にいい水の不思議」や幸田
露伴の「水」などを載せています。

III（水と文化）では、「四条河原の芝
居（林久美子）」、「関東大震災の
美談（榮森康治郎）」、「“水に流
す”日本人（橋本淳司）」などの話
を載せています。

IV（新聞の切抜きから）は、井上は、
「毎朝、新聞をひろげるたびに、水
に関する記事が目に入る。それらの
記事は、いま、世界が水を巡って騒
然としていることを教えてくれる」
と書き、新聞から、「水の年」、
「60億人、水を争奪」、「“仮想水”
輸入量は世界一」、「地球の異変を

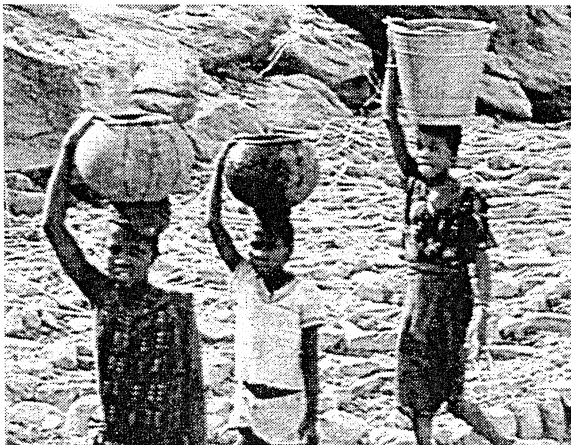
つげる生態系」、「生き抜くための宇宙の活用」、「水と食に迫る危機」、「水危機の克服」、「退耕還林」、「土は生きている」の記事を切り抜いています。

V（啄木と賢治）では、石川啄木の「一握の砂」や宮沢賢治の「雨ニモマケズ」などの詩が踊ります。

VI（水の詩）では、井上は「水の、この千変万化な有り様に、まず気付いたのは詩人たちだった」と言って、土井晩翠、三木露風、北原白秋、高村光太郎、野口雨情、中原中也等の詩を載せています。

VII（水あれこれ）では、寺田寅彦の「茶碗の湯」、秋田實「酒を飲めば」、新井満「ブルームスと松籟」、太宰治「海」、野坂昭如「小さな潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話」を載せています。

以上、井上は色々の本などから「水の話」を探し出してきて、一冊の本（「水」）にまとめました。



水を運ぶ子供(マリ)

○ 広げよう「水の輪」

兎にも角にも、井上は水に関心を持ち、想いを記すために、水に関する著述を一生懸命集めたように思います。

それ故、彼が水への熱い想いを読者に訴えようとするのが、ひしひしと感じられます。

彼が吐露しているように、水に関心を持ったのは最近のように思います。

然して、水に関する限り、私は井上より先輩です。30年以上水道に携わり、水に対する熱い想いは彼には負けません。

縁あって水道管工事に携わっている皆さんも水のプロ、井上に負けなくらいの熱い想いで、毎日、水と向き合っているとと思います。

さりながら、井上ひろしのような有名人が水に関心を持っていただけたことはうれしい限りです。

他に、水に関心を持ってくれている有名人では、アナウンサーのみのもたさんがいます。名古屋市の水道週間行事等では、何度か顔を見せています。尤も、彼は父親から引き継いだ水道メーター会社の社長さんをされているのですから、失礼ながら、当然とも思います。

元総理大臣の橋本龍太郎さんも、水への想いを熱くしています。昨年3月、琵琶湖・淀川水系を中心に開催された、「第3回世界水フォーラム」では運営委員会会長を勤められ、人一倍水に関心をもっています。自らのホームページでも「橋本龍太郎ギャラリー・水とのかかわ

り」を設けています。

現役作家では、先に私が紹介した杉本苑子さん、稲葉真弓さん、大沢在昌さん、宮本輝さん達が水への想いを強く持っておられます。水道産業新聞社初代編集長の黒岩重吾さんもそうでしたが、残念ながら、昨年亡くなられてしまいました。

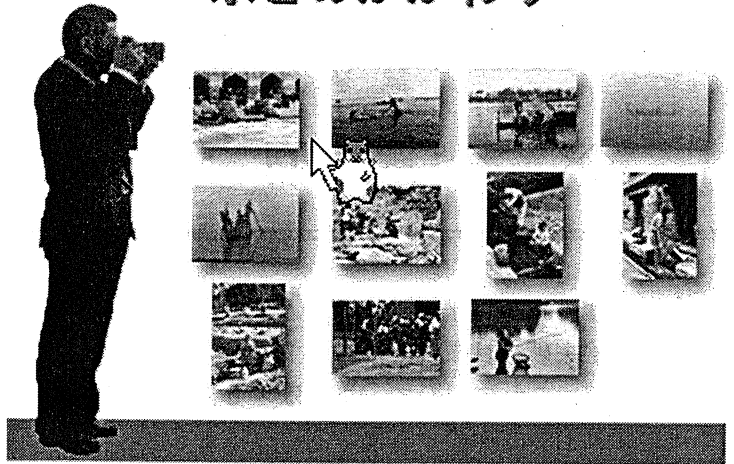
「大切な水、そして水が好き」と直木賞作家の井上さんが言ってくれました。

こんな応援をしてくれる人がどんどん増えてくれることを期待します。思想信条を超えて、「水の輪」が広がればいいなと思います。

人間にとっては、命が続く限り、水はなくてはならない物なのです。

橋本龍太郎ギャラリー

水とのかかわり



橋本龍太郎ギャラリー・ホームページより

皆さんも、私も、みんな「水の仲間」。水を愛し、そして、命の水を守るため共に頑張ろうではありませんか。